

2016年度 日本臨床検査医学会 第1回理事会（旧理事）議事録

日時：2016年3月27日（日）11：00～13：00

場所：学士会館 2F 202号室 東京都千代田区神田錦町 3-28（〒101-8459）

出席：村田 満理事長、前川真人副理事長、山田俊幸総務理事、諏訪部章会計理事、米山彰子庶務理事、佐守友博、小柴賢洋、藤田清貴、横田浩充、東條尚子、野島孝之、清水 力、本田孝行、清島 満、杉浦哲朗 各理事、高木 康、尾崎由基男 監事（17名）

陪席：矢富 裕、村上正巳、戸塚 実、柴田綾子、下 正宗、石井潤一、岡山昭彦 各次期理事候補者（7名）
野澤孝志 会計顧問

欠席：安東由喜雄、北島 勲、賀来満夫、一山 智、康 東天 各理事（5名）

会に先立ち、以下物故者を偲び黙祷が捧げられた。

2015年10月31日 功労会員 櫻川信男先生（81歳）（元 富山医科薬大）、
名誉会員 石井 暢先生（97歳）（元 昭和大）

2015年11月4日 名誉会員 島田信男先生（91歳）（元 京都府立医大）

2015年11月24日 名誉会員 屋形 稔先生（90歳）（元 新潟大）

2015年11月30日 功労会員 中野 博先生（82歳）（元 奈良県立医大）

2016年2月3日 名誉会員 福武勝博先生（99歳）（元 東京医大）

2016年2月21日 名誉会員 大場康寛先生（86歳）（元 近畿大学）

その後、村田満理事長から今回で現役員体制が終了となるので、任期中を振り返ってのこととお礼の挨拶があった。そして、野島孝之理事、本田孝行理事を議事録署名人に定めて理事会の議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部の終了した例会・総会・地方会、そして例会・総会・地方会の予定、支部役員の交代、支部での検査関係の教授、部長、技師長の退任・新任等について報告があった。

2. 委員会報告

1) 編集委員会（横田浩充 担当理事）

トピックス企画として、HDL、ISO15189、人間ドックについては掲載を終え、現在は、肝疾患診療、脂質異常症、バイオバンクの企画が進行している。今後、情報処理、感染症、救急・災害医療、専門医制度、TDM等の企画を検討する予定であること、研究倫理とCOIの投稿規定の検討をしたこと、4月よりメテオの会員向け「臨床病理」誌閲覧サービスを利用し会員に公開すること、2015年度掲載論文の優秀論文賞審査を開始したことが報告された。

編集委員会委員新規5名、継続11名について提案があり承認された。

2) 教育委員会（山田俊幸 委員長）

2015年度第62回学術集会（岐阜）で、教育委員会企画として、RCPC1、RCPC2、臨床検査医学 catch up セミナー「今・そしてこれからの臨床検査医学・各論」、第4回臨床検査を学ぶ若手医師の集いを実施したこと、2016年第63回学術集会（神戸）での、RCPC・Catch up セミナーと若手医師の集いの内容および開催方法の検討、学術集会での講習会欠席者へのビデオ web 配信、専門医会と共同での専攻医、研修医向けのテキスト作成の検討について報告された。

3) 精度管理委員会（山田俊幸 担当理事、前川真人 委員長）

2015年度 CAP サーベイ参加状況について、2015年度 CAP 国際臨床検査成績評価プログラム(CAP サーベイ)登録参加施設は 123 施設、遺伝子項目関連サーベイ参加施設は 17 施設であり遺伝子検査における精度管理の必要性の認識が広まりつつあること、IVD グローバルニュースの年4回の発行について報告された。

4) 国際委員会（米山彰子 庶務理事、北島 勲 担当理事欠席のため）

2015 年度に 2014 年国際学会発表者を対象として国際学会奨励賞受賞候補者として 3 名を決定したこと、2015 年 10 月 21 日～23 日、マナド（インドネシア）において Regional Scientific Meeting of ASCPaLM 2015 が、2015 年 11 月 18 日～21 日カンクン（メキシコ）において 28th World Congress of WASPaLM が開催され関係者が出席したことが報告された。

5) 広報委員会（佐守友博 担当理事、小柴賢洋 委員長）

学会ホームページの更新について、3 社の見積りと仕様書により検討した結果、委員会としては(株)大成のものを採用するという判断になり、2015 年 10 月 3 日の理事会で承認を受けた。現在は、テストページにて検討中であること、2015 年 11 月 6 日(金)に臨床検査振興協議会の広報委員会が開催され、2016 年度の厚労省の「子供見学デー」の開催計画を策定したこと、日臨技「全国検査と健康展」で、19 都府県が臨床検査専門医による「検査説明・健康相談」を行い、日本臨床検査専門医会は共催し延べ 40 名の医師を派遣したことが報告された。

3. 第 63 回学術集会報告（神戸 2016/9/1(木)～9/4(日)）（小柴賢洋 会長）

2016 年 9 月 1 日(木)～4 日(日)に、神戸国際会議場において、IFBLS2016（第 32 回世界医学検査学会）、第 65 回日本医学検査学会、第 11 回日本臨床検査学教育学会と同時期開催で、メインテーマは「Challenge」（医学検査学会と共通）、サブテーマは「臨床検査の連携・協働（仮）」として開催予定であること、医学検査学会共催での特別講演としては、井村裕夫先生（京都大学元総長）、テーマ「先制医療とその実現に向けての課題」で、当会の特別講演としては、Michail V. Sitkovsky 教授（Director, New England Inflammation and Tissue Protection Institute, Northeastern University）、テーマ「Anti-Hypoxia-A2-Adenosinergic coadjuvants to enable the immunotherapies of cancer and infectious diseases.」であること、3 月 7 日に一般演題の公募を締め切り査読を開始予定であることが報告された。

4. 第 64 回学術集会報告（米山彰子 庶務理事、会長 村上正巳：陪席）

2017 年 11 月 14 日（火）～11 月 19 日（日）、国立京都国際会館（京都）において、テーマ「次世代の医療の進歩への貢献」（Contribution to Medical Innovation of the Next-Generation）として、第 29 回世界病理臨床検査医学学会連合会議（The 29th World Congress of World Association of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)）との合同会議として開催予定であることが報告された。

5. 新専門医制度関連報告（山田俊幸 総務理事、領域代表）

・研修プログラム

研修プログラム申請は、2016 年 4 月末、領域研修委員会での基本 19 領域の研修プログラムを 1 次審査終了し、5 月末、日本専門医機構で 2 次審査を終了し、認定証交付予定である。6 月～9 月初旬まで、基本 19 領域の認定研修プログラムを公開し募集、2016 年 9 月末以降、領域ごと一斉に第 1 回採用試験を行い、その後、領域ごとに 2 次、3 次の採用試験を行うこととなる。

現在、臨床検査領域のプログラムは、プログラム数（＝基幹施設数）69、（単独施設数 13）、連携施設数 83、指導医数 216、空白県は、宮城、山形、新潟、滋賀、和歌山、鳥取、香川、徳島、宮崎、沖縄、茨城（連携施設あり）であり、3 月 21 日での第 3 回集中審査でほぼ一次審査を終了した。

・専門医更新

2016 年度内に全領域の更新基準を確定し、総合診療領域においても更新基準に関する検討を開始する。各種講習の事前審査体制を確立する。当会の更新要件では、診療実績の緩和策を検討し、「更新回数 4 回で実績不要」を「3 回で不要」と変更が認められた。レポートなどの実績に変わる、筆記試験や open book examination の導入（機構から示唆）を今後検討する。2020 年以降「学会認定、臨床検査専門医」を残す方針であるが、専門医という名称は使用不可であるため、検討する。

なお、日本専門医機構から、臨床検査専門医の英語表記を「Certified Laboratory Physician, JMB」（JMB は Japan Medical Board、Certified は共通で用いる）と提案され確認のうえ承認した。

・専門医認定

専門医認定に関し、領域専門医委員会内において試験委員会をスタートさせ、認定試験基準及び合格基準を作成する。なお、サブ領域の更新基準について各領域のヒアリングが開始される。

・資格更新単位認定用講習会

2017年度から機構が審査、認定（一次審査は領域）する。3か月前にはHPで公開するため、年次集会、地方会が対象となるが、企画提出は4か月前となる。当会としては、教育講演、教育セミナー、RCPC、ハンズオンセミナー、グループワーク等の内容での企画を予定しており、各支部および学術集会会長が決定後、領域委員会担当から企画立てを依頼することを考えている。

6. その他（村田 満 理事長）

2018・2020年度学術集会運営事務局の選定について

2018年度から3年間固定での学術集会運営事務局選定のためコンペを行い、現常任理事会としては、1社を決定予定だが、他社より、再度、費用の提示があるため、その確認後に最終決定予定であることが報告された。

II 審議事項

1. 2015年度に関わる事業報告・会計収支決算報告について（米山彰子庶務理事、諏訪部章 会計理事）

事業報告書、貸借対照表、損益計算書、監査報告書が提示され、事業報告については米山庶務理事から会議、会員数、関連団体行事、経過及び実績、活動、各種委員会、対処すべき課題として学会の活性化、専門医ならびに管理医の養成そして倫理観の向上等の報告があった。

会計収支決算報告については、諏訪部会計理事から説明があった。

過去4年間の事業成績及び財産の報告があり、一般会計、まず収入については、予算比、賛助会費(過去分納入の会社があったため)、広告収入(常任理事で抄録の広告募集を行ったため)の増収に対して、外販収入の減収が見られた。なお、第61回学術集会から補助金を600万円上回る返戻金があった。

支出としては、機関紙発行費用が予算比800万円弱増加したことについて、2012～2015年度の機関誌発行費用内訳が資料として提示され、昨年も同様、ページ数の増加と、非会員の依頼原稿でのカラー代金などが主な要因である。次年度の予算立ての際には注意したい。

アジア交流基金、学会賞基金は、予算通りであった。特別会計は、動きがないため、今回収支報告はなしとした。

第61回学術集会会計報告は既に理事会で報告済みであるが、2015年度に係る定時社員総会で、2015年度会計報告と第61回学術集会会計報告し、承認を得たうえで合算して税務申告する。なお、学術集会会計報告は、定時社員総会への報告、税務申告は会計のまとめの都合上1年遅れとなる。

高木康監事より、2015年3月17日に学会事務所で会計監査を行い、事業報告、会計書類の確認をし、理事職務遂行、会計報告書類は正しく記載し合致しておりの確であると監査報告があり、承認された。

2. 第62回学術集会収支決算報告について（清島 満 会長、諏訪部章 会計理事）

2015年11月19～22日に岐阜市で開催された第62回学術集会の収支報告書が提示された。この回より、当会の補助金が500万円となり収支差額は5万円ほどであったこと等が報告され、承認された。

3. 細則の一部改定について（米山彰子 会則改定委員会 担当理事）

次期理事候補者選出後に次期理事長予定者が選出されるが、その選出方法の細則の改定案が提示され、承認された。

4. 次期理事長予定者選出についての申し合わせ事項について（米山彰子 会則改定委員会 担当理事）

細則に加えて、次期理事長予定者選出の流れを記した申し合わせが提示され、承認された。

5. 同学院臨床検査士資格認定制度緊急臨床検査士規定一部改定について（米山彰子 会則改定委員会 担当理事）

同学院から当会へ臨床検査士資格認定制度緊急臨床検査士規定の確認依頼があり、現在の本認定制度の運用に合わせた一部改定案が提示され、承認された。

6. 受験・更新資格審査委員会内規改定（案）について村田 満 理事長（審議会委員長）

2015年12月26日の臨床検査専門医・管理医審議会の際に、受験・更新資格審査委員会より受験・更新資格審査委員会内規に、実際に行っている管理医の受験・更新資格審査の記載がないため、追記した内規が提案された改定案について報告があり、承認された。

7. 2016・2017年度役員について（村田 満 理事長2）

定款第6章 理事および監事（選任）第27条3「理事長は、理事および監事の選任を定時社員総会の決議に諮る場合、理事および監事選任議案を作成して提出しなければならない。」により、2016・2017年度の理事候補者として、2014年度就任で選挙によらず重任可能な理事の4名および2016年度就任の6名、支部から推薦された支部理事7名、次期理事長予定者より推薦された指名理事3名、監事候補者1名が提示され、承認された。

8. その他（山田俊幸 総務理事）

新理事会終了後15時30分からの新旧理事会懇親会の案内があった。

VI 閉会の挨拶（前川真人 副理事長）

前川真人副理事長より、今回で現役員体制が終了するため振り返ってのことと、お礼、その後、閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

議事録署名人

_____ 印

_____ 印